

マイクロスコープを用いた精密歯科治療

岡口守雄
岡口歯科医院

抄録

17年前に出会った、マイクロスコープがもたらす拡大視野の歯科治療は、私の臨床の最大の技術革新です。マイクロスコープが普及した現在、単に見るためのツールではなく、いかに使いこなしその拡大視野の世界を精密な臨床に反映させるかがテーマになってきていると思います。

審美治療、MIを極めようとするとき、肉眼を超えた処置が必ず必要になります。修復物を適合させるオーダーをいかに下げることができるか、健全なエナメル質をいかに切削せず残していくか、充填物の移行部の滑らかさなどマイクロスコープなしには達成できません。

さらに、肉眼では見ることができなかつた歯内療法の世界においても、マイクロスコープ下では、複雑な解剖学的形態に潜む様々な感染源を実際に見て治療することができるようになりました。そして、CBCT、OKマイクロエクスカといったツールを使用することにより従来、難治療症例といわれ抜歯を余儀なくされていたケースにおいても、治療する可能性が大きく広がりました。

また、一方で、歯内療法におけるもう一つの重要なカテゴリーである Vital pulp therapy (歯髄保存) もマイクロスコープの登場により大きく変化しています。拡大視野の中で行う精密で限局的な感染象牙質の除去により、従来の基準では、保存が不可のものであると思われていた歯髄も残すことができるようになってきたのです。

このように、マイクロスコープはただ見るだけではなく使いこなすことで私たちの手を「ゴッドハンド」に変えてくれる可能性を秘めたツールです。現在私の歯科臨床全ての処置をマイクロスコープ下で行っていますが、その中から様々な症例をお見せし、マイクロスコープをどう生かすかということをお話したいと思います。

略歴

1976年 明治大学政治経済学部経済学科卒業

1986年 岩手医科大学歯学部卒業

1993年 東京都千代田区にて開業

東京 SJCD 理事

東京 SJCD マイクロスコープインストラクター

JEA 関東歯内療法学会会員

日本顎咬合学会指導医

カールツァイス公認マイクロスコープインストラクター

AMED(academy of microscope enhanced dentistry)会員